



半導体シニア協会ニューズレター

発刊年月 1998年4月

発刊部数 1,000部

発刊 SSIS半導体シニア協会

No.1

SSIS設立さる

1月23日設立総会

川西会長、力強く設立宣言
準備委員会提案案件、一括承認

1998年1月23日設立総会、ホテルグランドパレスで開催。定刻10時半、村川準備委員の司会でまず川西準備委員会代表（後刻会長に選出された）の「たった今シンガポール出張から夜行便で着きここに直行しました」との導入部から、人生80歳時代に少子化がすすむ日本こそシニアパワーの活用が社会問題となる。ここまで大きく育ち、世界からも評価されている我々半導体関連業界のシニアは長年培った経営や技術のノウハウをさらにブラッシュアップしジョブスパンを拡大すべく本会を創立した。試算では人生の余暇、自由時間



協会設立を宣言する川西会長

は社業に費やす時間の3倍の30%となる、有効に使うべきと示唆された。ついで河崎準備委員長から3ステップに分けた設立の経過、趣旨、準備会合の内容等の紹介があり、会則、会員入会状況、組織、委員指名案、具体的活動骨子等に触れ、村川準備委員の2500万均等暫定予算の説明を含め満場一致の拍手で一括承認された。そして川西会長の設立宣言が力強く行われ、本会は無事スタートを切った。

来賓の祝辞

NEC 佐々木副社長、SSISにエール

来賓挨拶に登壇したNEC佐々木元副社長は、準備委員の顔ぶれを見て日本の半導体産業のこれまでの足なみが凝縮しているようだとして、この転換期こそ先達の知恵の見せ場だと激励された。そして半導体の発展は50年経過、今後50年は続くとの考えでSIRIJ(半導体産業研究所)やSTARC(半導体理工学研究センター)を設立、民間ベースでの企業間や産学協同の仕組みは世界からも高く評価されている。96年の8月2日（7月33日と表現された）に10年経過して実効のあった日米半導体協定を牧本代表団の連日徹夜交渉の結果、世界半導体会議（日米欧韓に今年から台も加入）の創設などの改編で決着した。かかる時代の流れに乗ってSSISも、先輩のISSCC(国際半導体会議)の立派なボランティア活動のように活動成果を挙げてほしい、と締めくくられた。

CONTENTS

・ SSIS設立さる 協会設立総会	1 頁
・ 関西支部活動開始 懇親会開催	4 頁
・ 会員向け研修会企画ただいま進行中	5 頁
・ 中山氏 NHKラジオタ刊に出演	6 頁

設立記念講演I 東芝 渡里元社長、偉大な経済人を語る

引き続き登壇の渡里東芝相談役元社長は、「先輩の思い出」と題してご自身の東芝在籍50年の回顧と偉大な3人の社長像をエピソードを散りばめ見事な話術を駆使された。要約するのは申しわけないとお詫びしつつ報告する。

導入部は35年前の半導体管掌の中西副社長が鶴見の当時最大の60万kW発電機のテストをご覧になって、50mの回転体が分3600回転する経験と勘によるタービン技術者（講師ご自身）の誇りに対し、大きい装置は計算できるからまだ良い、半導体のように小さい製品の製造は計算どおりにならないのだよと言われた事を実に先見性のある発言だったと述懐された。

石坂泰三氏とマーケティング 80越えてなおステーキをペロリ

そしてまず、マーケティングと石坂さんと題して既存製品の需要予測程度の意味が通用していたマーケティングが、GEでは35年前に市場を新に創出する意味に使われていたと言われた話、そして日本生産性本部の視察団で石坂さんは随行の岩田秘書役に米国産業界の感想として a：米国の労働者は自分の仕事に忠誠心を持つ。b：大量生産を武器にコストダウンを図り市場拡大に繋げる戦略があたりまえだ。c：常に生産部門とR&Dが直結されマーケティングがすすめられる、と見事な洞察力を示すコメントをされた。入社当時の石坂提案のまず復興需要の昇降機で稼いでから新規開発をと言う役員会発言は貴重な技術者を当てる事業でないと潰され、後に皆が残念だったが、社長になると強引に新聞記事からトランジスタ事業化を推進された。その時も「うちには市場で強い真空管があるのに何故」と反対されたものの、社長の独断が東芝の半導体事業の基礎と作った。もっとも社内のTVなどはトランジスタを嫌い、やむなくシャープさんや三洋さんに売りにいったものだと語られ、マーケティングこそ経営者の判断が肝

要で、社内に強い技術があるとかえって後れを取ると指摘された。石坂さんは84才にして厚いステーキをペロリだったとの挿話も紹介された。

土光敏夫氏と現場主義 土光社長の薫陶と私

土光さんと現場主義では講師が鶴見工場長時代、日曜日に土光社長が突然入ろうとして守衛に阻止され、通報があったので駆け付けたところ、守衛は立派だが社長の名前も守衛に教えてない工場長は最低だと叱られた。しかし日は笑っておられホッとした、との挿話から入り、現場案内では機械の裏を見たり、図面と照合されるなどで判断される問題点の指摘は正確で教えられ、鶴見の最初の事務系工場長だった私は毎日1時間半を掛けて現場訪問を心がけた。そのため現場での失敗談や、町で会っても挨拶が交わせる関係が皆とでき、訓示をしても反応が感じられるようになった。これはリーダーにとって最高の喜びと思う。そして後に自分でポンプアップ経営と名付けた経営方針を志向したが、従業員の能力を引き出すにはそれなりの哲学=企業戦略を立てこれを呼び水にして現場の意義を変える仕組みを作った。これも土光さんの薫陶による現場重視が基本になっている。土光さんは鋭い眼光の持ち主で、日頃動物の強弱は眼光で決まるとの持論だった。我々は目を伏せると質問が飛んで来るし、眼光では負けるので眉間を見るのが秘訣と話しあったものだ。土光さんの節約ぶりは有名で工場の会食も稲荷寿司や海苔巻程度が慣例だったので、ある



聴衆に語りかける渡里元社長

とき二段重ねの鰻重をトライしてみた、ペロリとたいらげた土光さんが小声で私に「渡里実はこれが一番好きなんだ」と喜ばれ、ヤッターと思ったことを鮮明に覚えている。日課の木刀振りができなくなると衰弱が始まり亡くなられたが、教えは生きている。情報化時代でもディスプレイの画面との対話では事が進まない。学卒者の現場投入が日本の強みだ。現場とエンジニアとのコンカレントな開発が要求されようと持論を述べられた。

岩田貳夫氏と計画

その重要性を肝銘する

岩田さんと中期計画、人事の重要性。今でこそ5年計画のローリングはどここの社でもやっているが、岩田流は3年経過で残りの2年を見直し、4年目に次の5年間の計画を策定するものだった。そしてa：選択＝総花はだめ、経営資源の適性配分が経営者の仕事。b：海外戦略＝市場も生産拠点も。c：関連会社の評価＝連結時代に備え事業部長にも関連会社の運営責任を持たせた。私の後の佐藤社長も選択と集中を方針とされている。私が社長になると岩田さんから後継者は早めに決めるよう指導された。また役員の管掌職務も長くないよう配慮された。理由は腐敗、独断専行の対策との事だった。その上役員任期、定年は固く守られた。岩田さんは前のお二人と異なり生え抜き社長だった。社長のタイプも「実業家であるお二人は生まれつきの天性を具え日本の企業全体を考える存在だったが、私は企業家にすぎない。しかし今の当社にはこのタイプが必要だ」と言っておられた。色紙には常に「平凡」と書かれ、部下には当たり前前のことを当たり前前にやれと指導された。命令を意義しないで行動出来る組織が理想とも言われた。しかし目標はキチンと決め、周到な事前準備をしてこそ当たり前前のように成果が出るとも教わった。ご本人は顧客との会食にも事前に味見を心がけられたし、当意即妙な対話をされたが、いつもネタをメモされる努力も知っている。体調からゴルフを止められてもクラブハウスで客を待つ気配りだった。ある時中研でノーベル賞を狙おうとのス

ローガンを見付け、これは結果ならよいが、目的にしては困ると評された。また財テクは終始許されなかった事も見識だった。東芝はまだバンカーを避けてボギーオンで良いとも言われた。さて結びだが私としては現下の情勢から日本の将来の不安が叫ばれているが、私たちが直面したオイルショックの時代の方が厳しかったと感じている。ただし当時は国民に勤勉さが有った。それがまだ有ればオイルショックの時同様必ず克服出来ると強調され講演を了えられた。まさにしわぶきの音すらない聴衆の魅了ぶりだった。

祝宴 引き続き記念講演II

通産省羽山課長 NHK高柳氏を迎えて

引き続き昼時には、会場を移して祝宴となった。まずはじめに通産省機械情報産業局の広瀬勝貞局長の代理として同局総務課長羽山正孝氏により、SSISが行政面からも注目を浴びていることを熱く感じさせる祝辞があった。同課長の話は、かかる試みを真剣に考える半導体産業のシニアにとって大きな励みとなるものであった。次に先の総会で諮問委員に選任された井上皓東京エレクトロン(株)会長の、いつもの通りの即妙のスピーチとともに乾杯があり、祝宴はさらに盛り上がり、さらに暖かみのあるものとなった。

肴良し、人良し、意気も良し。祝いの宴は通産省元事務次官の棚橋祐治氏やNHKの小林和男解説主幹も交え、午後の部の開始直前までなごやかに推移した。

午後の部は記念講演として、高柳雄一氏(NHK 解説委員)の「近未来産業の展望」と題する講演。高柳氏は宇宙産業に造詣が深く、関連のエピソードを交えながらほぼ1時間にわたって聴衆を魅了した。

パネルディスカッション

各界より5名登壇、協会の性質が明確に...

さらに、中山 蕃運営委員会幹事の司会によるパネルディスカッション。パネリストとして長見 晃氏 (EIAJ 電子デバイス部長)、石原宏教授 (東工大 精密工学研究所)、野原壽雄

氏（日立メモリ本部長）、またSSIS委員として、河崎達夫氏（松下電器産業 客員）、リチャード・ダイク氏（テラデザイン 社長）、加藤俊夫氏（厚木エレクトロニクスリサーチ 代表）の各氏、いずれも一言をお持ちの方ばかりで、長見氏は業界をまとめる立場から、石原教授は研究・教育の、野原氏は現に半導体産業の最前線にたつ現役の、それぞれの立場からSSISに寄せる期待と要望を述べられた。これに対して運営委員であるダイク氏・加藤氏は、外資系企業といった視点から、また企業OBとして活躍する身にとって、SSISがどのように映るか、何をなすうかが述べられた。加えて運営委員長となった河崎氏によりSSISの性格についての解説的な意見開陳がなされた後、参加者を加えてのディスカッションに移った。



パネルディスカッションの様様

ここで会場からも活発な発言があった。曰く、「中堅企業における人材の確保に意を砕いて欲しい」、「メンバーが新たなステージで就職した場合、前の企業で知り得た知識についての秘密保持はどうなるのか」等々... パネリストへの質問、SSISへの質問・意見が相次ぎ、会場全体で出る問題一つごとに真面目に検討を加え、参加者にとってはSSISがより明確な形で像を結ぶものとなり、午後4時過ぎ、予定を超過して盛会のうちに終了した。

SSIS会員募集中！

SSISでは会員を募集中です。会員各位には身近の半導体シニアをご紹介下さい。協会は研修会等の活動内容の充実を図っています。本誌をお知り合いの方にお配り下さい。事務局までご一報いただければ資料お送りします。



関西支部活動開始! 懇親会開催

3月10日（火）、大阪・梅田の新阪急ホテルにおいて関西支部懇親会が開催された。当日は1月に東京で開催された設立総会に出席できなかった方も含め、30名を超える出席者があり、和やかで家族的な雰囲気うちに終始した。

はじめに川西 剛会長が登壇した。会長はこの懇親会に先立ち、約1週間にわたりイスラエルに視察旅行に出かけたのだが、あいさつの中に同国の半導体産業の現状、世界史の舞台としての彼の地の印象などを語り、早速参加者に新知識を贈った。引き続いて関西支部のトップである河崎達夫運営委員長により、SSISの概要説明があった。

今回の懇親会は会費制の集いであったが、SSISの集いは研修会・懇親会とも原則として会費徴収のものになる。というのはSSISは個人が任意で集まる団体であり、その原則からすると（集まりごとの費用を全額というのではなく）ある程度のご負担を参加者をお願いするのが筋であろうという考えからである。以降の各種の集いも幾ばくかの負担をおねがいすることになる。

さて懇親会の方は、出席者一人一人による、協会に対するコメントを一言ずつ交えた自己紹介がなされ、穏やかな懇親に移った。協会へのコメントでは、やはり研修会開催、人材派遣、交流会開催の希望が提起され、協会に対する期待を感じさせる意見が多々あり、限られた時間がさらに短く感じる、実のある集いとなり、午後6時半頃散会した。

会員向け研修会企画 ただいま進行中

先に協会の活動として研修会を開催するため、会員がどのような方向に関心を持っているかを知るためにアンケートを募ったところ、多数の回答が寄せられた。ご協力に感謝するとともに、会員各位の関心領域を知る上で参考になると思われるので以下にまとめた上で報告する。

まず「研修会の企画として、どのような方向性のもに関心があるか」を先端技術・基礎技術・経営・シニアライフの心構え・その他という5つの選択肢により答えていただき、それを受けて「研修会の具体的なタイトル」を尋ねたところ、以下のような回答が寄せられた。

研修会で修得したいことは？ アンケートに見られる関心のありか

◆最先端技術～0.13umプロセスの技術的バリアと対応する設備・装置など、300mmウェハの技術的バリアと対応する設備・装置など、シリコンはいつま生き続けるか、SOIウェハの最新技術動向について、CSPなど新しいチップの動向とそれに対応する設備・装置など

◆基礎技術～新しい生産管理システム、使用ガス・純水・他材料の純度、ウェハの平坦度

◆半導体産業の将来～どうなるのか日本の半導体産業、海外半導体産業の動向、日米半導体産業における経営手法の比較、グローバル化の推進について、製品動向、半導体の需要想定と必要な原料、21世紀の電子機器の動向

◆システムLSIについて～必要な技術、設計のポイント、設計プロセス、デザインルール

◆シニアライフ～シニアとしての活躍の場を考える（情報交換）、定年予備軍の心構えと対策、シニアライフのあり方、先達・高僧の話

いずれもなるほどこういう話ならばぜひ聞きたいと納得する事柄ばかりで、併せて会員の旺盛な意欲をも窺わせる結果となった。

さらに希望する講師を尋ねたところ、具体的人名が出たほか、実務を担当しているイキの良い人、日米半導体企業のトップの方など、どこでも聞くことが難しそうな、しかしながらSSISには好適の意見が寄せられた。

開催日程と時間帯については、平日の午後という意見が多数を占めた。

こうした意向を受けて協会では、研修会担当委員をおき、毎月（偶数月＝東京、奇数月＝関西）開催の予定で進行することとした。なお研修会は5月より開催する。第1回は5月7日（木）午後、東京・神田の学士会館で開催する（最終頁に情報あり）。

最後に研修担当委員からの一言。「さすがに各設問に対しSSISに適切なテーマをいただきました。今後皆さんの期待に応えるべく、良い企画を推進したいと考えています。今後とも積極的にご意見をお寄せ下さい」（梅田治彦運営委員）

～Opportunities～

このコーナーでは協会に寄せられた人材募集の声をお知らせします。ご関心のある向きは詳細を事務局までお問い合わせ下さい。求職中の方の情報も掲載します。併せて事務局までご連絡下さい。

No.98001 A社アナログ回路設計のエキスパート求む（関東、在宅勤務可）。

No.98002 B社、新規ビジネス立ち上げのための実装技術者を求む（海外）。

No.98003 C社、後工程工場立ち上げのため、練達の士を求む（海外）。

No.98004 鋳物業界のD社、半導体産業にマーケット拡大を希望。ついては諸方面に指導を受けられる起業家精神あふれる人材を求む（関東）。

No.98005 E大学、研究サポートのための人材求む（関東）。

No.98006 部品メーカーF社、プロセスに明るい人材求む（事業部長クラス～中堅、関西）

No.98007 当協会、ヴォランティアで活躍していただける方求む（関東、関西）

中山氏「ラジオ夕刊」 に出演

1月28日 ホストは小林和男解説主幹

1月23日に発足したばかりのSSISの発案者の一人である中山 蕃運営委員会幹事が、1月28日放送のNHK「ラジオ夕刊」の鼎談にSSISの存在を広くPRする好機と出演された。

前もってのシナリオは新鮮さを欠くとの方針で、正にブツケ本番の無修正録音なのでさぞかし緊張されたと思うが、それにしてもマイペースで鋭いつっこみにもソツなく対応され、大役を無事勤め上げられた。局側はロシア通で有名な小林和男解説主幹と和泉昭子キャスターである。このようなトーク番組のニューアンスを活字で表すのは至難なことだが、敢えてお聞きにならなかった会員に内容の一端をお伝えする。

半導体業界の特質とSSIS設立の経緯

協会の課題と寄せられる期待

番組はまずSSISの母体である半導体業界の特質から入った。中山さんはこの業界の発展スピードをショックレー氏自身が想像もつかなかった51年間だと述べ、1985～6年頃の日米半導体摩擦打開に、官民ともに同じ土俵に上がり国際協調の重要性に直面し、日頃の各社個々の競争は激しいが、同じ業界の構成員としての連帯感が生まれたことがSSISの結成の素地になっていると指摘した。そしてこの組織を作る発想のキッカケとして数年前大手デバイスメーカーを50代半ばでリタイアされる幹部の方の肩を落とした姿を見て、もったいない、何とか彼らの知識と経験を活用できる仕組みはないかと思ひ、この時代の先端を行く半導体関連産業が日本で40年かけて培ったものは世界の財産と考えるべきだ、これを活かすには若い人達の活躍する青年海外協力隊のような組織だと思いついた。約1年半、有識者、同憂の士とアンケートや討論を重ね、ようやく発足に至った。会員の対象も年齢にこだわらず、定年に達しない年代も予備軍と

して参加して欲しい。いままで競争してきたメンバーが呉越同舟で自分達の知識と経験が何に貢献できるか考えて行動して行けるのはすばらしいことであろう。

既に議論されている対象としては、装置、材料両業界に対する技術支援、長短期の人的支援、発展途上国への各種支援、国内の大学、専門学校等の実験指導者の派遣、各種論文の書き方や翻訳の指導など多岐にわたっている。

もちろん、企業秘密の漏洩をどう扱うか、などの問題は生じるが、この辺は企業側と話し合い不文律を作りたいし、我々シニアの知見はどんどん古いものになることから、企業側も暗黙の了解の範囲は時間の経過に従って広がることだろう。30年前に1年かけて解決したことは、その後の技術の進歩があっても1日ではなく半年程度はかかると思う。だからシニアの過去の経験の積み重ねは貴重だと考える。

シニアの自己研鑽と社会への貢献

一方シニア側もリタイアすると新知識に直接触れる機会が減るので、勉強会を最低月一回開いて現役にも教えを乞い、交流しつつ自己研鑽に励むことが必要だ。

活動資金については個人年会費を15,000円として参加しやすくしたが、企業に賛助会員としてご協賛をお願いし財政を維持する。既に40社ほどご賛同を得た。もちろん賛助していただくだけに我々の活動への厳しい評価は覚悟している。プレッシャーは感じるが情熱をもって事に当たりたい。

有難いことは、シニアとして育ててもらった世の中に何らかの手段で御恩返し of 還元を、との動機は個人・企業双方に総論賛成していただけたと感じている。各論については運営方法等で種々意見が分かれているところもあるが、ノウハウの扱い、メンバー国籍、活動計画など論議をつくし情熱をもって解決をはかっていく。幸い我々はグローバルな活動に馴染んだ業界で育っており、人脈が多く、はやくもロシア、シンガポール、台湾から会員資格と人材派遣の打診が来ており、関心の深さを感じている。国内にしても日本は世界に誇る中堅企業集団が産業の発展に不可欠な

装置・材料・部品などを供給している。

これらの会社に半導体メーカーをリタイアしたベテランの協力や助言は喜ばれるしボランティアまたは常識の半分程度の負担としてシニア側にも喜んでいただくシステムを確立したいと念願している、などと持論を展開された。

小林、和泉両氏の鋭い質問をよどみなくさばく論旨と話術に対し小林さんから、今日は中山さんの若さに圧倒された。単なるハッピー

イリタイアを超えるこの新しいチャレンジを成功させ、他の業界がフォローしたくなるような活動に期待している。言い換えればSSISの存在は日本のかかえる諸問題の一つの焦点となり得るように感じている、ここまでもって来られた中山さんの個人のご努力に敬意を表したい、と締めくくった。

中山さん良いPRが出来ました。ご苦労様でした。

投稿コーナー

News Letterも助走期間は活動報告も限られているのでその間は編集部でスペースを埋めるため、俗称埋め草という軽い記事を採録するのが常である。第1号は編集部内でこんな軽い座興を企画してみた。次号からは会員の投稿を期待している。軌道に乗るまでは投稿が集まらないときにはご指名で皆さんにもお願いするつもりです（尋常のご覚悟を...）。

青壮のシニア一同揃い踏み
設立総会の発起人一同の情景から

素晴らしき成果未だにショックレー
中山幹事のNHK対談から

神童や才子も今やシニア入り
少年老い易く学成り難し、研修会でリフレッシュ

セミナーとショーで一度に新知識
賛助会員のセミさんに敬意を表して

シニアさん知っているのか新技術
と若い人に言われぬように研修会を企画中

サイクルは去りぬと言いつつシニア有り
この産業に予測は無理か？

線幅を更にいじめて勝負する
目下のD-RAM対策の決め手？

シュリンクでサイズはいつも最小に
上に同じ意味

シェアDownすぐにIntel再値下げ
下げても儲かるとは羨ましい！

精緻なる素子一面に勢揃い
システムLSIを表現したつもりですが？

システムで勝負一発新世紀
システムはやはりシステムLSIのこと

川柳 SSIS版

本コーナー、現役時代に「半導体産業は××である」シリーズで人々を感心させた某シニアもおられること、多彩多岐なコーナーに育つように期待している。

ルール 五七五の最初をS音（サシスセソ）とし、中の句の第2節をI音（イ）の語から始める、字余りは可。
（今号担当:Y.K.委員）

ステッパー精度一流新光源
チョット甘いですか吉田さん？

300の成果如何かセリートさん
小宮主審の装置、材料の判定に世界が注目

信頼性装置今こそ差別化を
信頼性を生産性に置き換えても使えます

新技術素材一変様がわり
TABだベアチップだボールセミコンだと実例豊富

シリコンの素材いまだにスグレモノ
もちろん未来への不安はありますよね梅田さん

新用途更に活かせるSOI
シリコン屋さん量産技術は大丈夫？

セーフティー操作はいつも慎重に
学生への実験指導依頼にことよせて

さりげないシニアの意見素晴らしく
こうありたいとの願望です

シニアこそ示せ生き甲斐背伸びして
良いスローガンでしよう

（トリ）思春期は戦争一途失樂園
グランドシニアに捧げてただし解釈は各人ご自由に

協会オフィス開設さる 東京と大阪 2カ所でオープン

協会発足に伴い、オフィスも開設された(東京および大阪)。

東京事務局の所在地等は以下の通り。

東京都文京区本郷4-1-4 コスモス本郷ビル8階
(〒113-0033) TEL:03-3815-8939、FAX:03-3815-8529 E-mail:ssis@blue.ocn.ne.jp

大阪の事務所は

大阪市中央区北浜2-1-21 つねなりビル6階(〒541-0041) TEL:06-222-4416、FAX:06-222-4417 E-mail:syssi@osk3.3web.ne.jp

両所とも漸次ライブラリを充実させ、会員の便宜に供するように準備を進めている。

実はこれらのオフィス、SSIS独自で構えているわけではない。東京は、International Symposium on Semiconductor Manufacturing (ISSM)の事務局と同居している。SSISはISSM諮問委員会の席上でアイデアが生まれた。雌伏期間約1年、SSISはISSMを母胎として(またそのメンバーの力によりながら)誕生した。それで、出生後も暫くは親許に同居する次第。大阪は、河崎達夫運営委員長がこの4月より開校した、システムLSI技術学院に同居させていただいている。同学院は「先端技術を総合的に理解し活用しきる」ため、「技術者がシステムLSI技術を総合的に深く修得する」ことを目的として設立された。学院では毎週水曜日の午後をSSISデーと定め、会員のために場所を提供して下さるとのこと。

以上のような次第で当協会もオフィスを構えることができたわけで、この機をとらえてご理解いただいている両所に特に謝意を表す次第である。

SSIS News Letter "ENCORE" No.1

発行日：1998年4月10日

発行者：SSIS 半導体シニア協会

会長 川西 剛

編集委員 川崎 芳孝

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-4

コスモス本郷ビル8階

TEL:03-3815-8939

FAX:03-3815-8529

研修会概要決定!! 5月7日(東京)、20日(大阪)

協会活動の大きな柱、研修会が始動した。

第1回は5月7日(木)、15:00より、東京神田の学士会館で、SELETE(半導体先端テクノロジーズ)の小宮啓義専務を講師として招き、「半導体先端技術の動向」について、第2回は5月20日(水)同じく15:00より、北浜のシステムLSI技術学院で、シャープIC天理事業本部の三宅隆一郎副本部長を講師に招き「今後の先端プロセスの動向」と題する講演を聞く。

SSIS月例研修会の原則

研修会参加費は(毎回原則として)、会員の場合¥3,000、非会員の場合¥6,000(入会同時参加申込可)。さらに、講演(2時間を予定)の後簡単な懇親会を予定している(無料)。

参加希望者は希望日、氏名、電話番号、会員・非会員の別を明記して事務局宛FAXかはがきでお申込下さい。広く、多くの方の参加をお待ちしております(事務局所在地、FAXは左項参照)。

編集後記

地域を隔て、交流のない異なった文明の流れの中で、どういうわけか同様の結論に達したり発見をすることがままある。「歴史的共時性」という言葉で説明されたりする。

SSISに関してもそうした法則(?)が貫かれているようで、海外でも類似の団体を起こす動きがあるらしい。これは視点を換えれば、SSISのような存在を、歴史が世界的規模で求めている証左と見ることもできる。

そのような潮流を見極め、SSIS設立に奔走された方々の尽力に、また理解を示された方々の慧眼に、我ら後続の者どもはまずもって大きな敬意を表したい。そして会員各位の警咳に接し、その衣鉢を受け継ぐ(盗む?)べく画策することをお許し願いたい。

さて、「歴史的共時性」は悲喜劇をも巻き起こす。栄光は先覚者の上にもたらされ、今一步のところまで二番手に甘んじざるを得なかった人々には茶番の語が用意されている。世界がグローバル化している今日、その言葉がもたらす哀感もひときわであろう。先覚者たる資格充分なSSISと会員各位に栄光のもたらされるようお手伝いすべく、改めて自ら鞭打つこの頃である。